

令和4年度第2回寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議

日 時：令和4年10月14日（金）10：00～

場 所：寝屋川市クリーンセンター6階 多目的室

議 題：令和4年度（4月～8月まで）ごみ総排出量について、令和4年度ごみ減量の取組について、令和5年度ごみ減量の取組計画について、その他

出席者：花嶋会長、荻野副会長、斎藤委員、清水委員、仙波委員、竹川委員、藤澤委員、榎並委員、掛川委員、森委員、石村委員

次第1． 令和4年度（4月～8月まで）ごみ総排出量について

（資料1に基づき、事務局より説明）

委 員：令和4年度の目標と比べてどのような状況か。

事務局：事業系ごみは令和3年度減少したことから、現状で行けば目標値を達成している状況である。家庭ごみについて減少しているものの、もう少し減少幅を増やさないと目標達成は難しい状況である。

会 長：全国におけるごみの推移等を確認したい。

委 員：コロナの影響により変化している。寝屋川市の状況と同様に、家庭系が増加、事業系ごみが減少した結果が出ている。ごみ量の比較をする場合は、コロナ前と比較する方がいいかもしれない。

次第2． ごみ減量の取組について

（資料2・3に基づき、事務局より説明）

委 員：フードドライブ常設について香里園地区にも増設してほしい。また、特定の民間事業者との連携については、他の事業者を含めて検討されたのか。また、ごみ減量コンテストについては令和3年度に事業立案しているものと理解しているが予算額について教えてほしい。最後にジモティーの出品について、どのようなものが対象か。

事務局：フードドライブの回収場所の増設については、収集について生活協同組合おおさかパルコープが実施しており、事業者を含め検討する必要があると認識している。また他の事業者がなかったのかという点については、フードドライブについては民間

事業者の店舗等で実施していることがあるのは把握しているが、収集をしているところは生活協同組合おおさかパルコープ以外にはないと認識している。リネットジャパンについては、環境省や経産省から認定を受けているといった点から締結した。ジモティーについては、実店舗で事業している事業者は多々あるが、リユースに関して自治体と連携した取組は他にないと認識している。

なお、ごみ減量コンテストの予算は約 210 万円であり、ジモティーへの出品するものは、家電等が中心で市内にもあるリユースショップと同様と理解していただければよい。

委員：フードドライブ常設については、例えば中央高齢者福祉センターやコミセンなどへの増設も考えてほしい。現状の3か所だけでは少なく感じる。

事務局：フードドライブ増設については、連携協定を締結した事業者との話し合いやまた今年度の回収状況等を含め検討する必要がある。

会長：資料にあるごみ通信は10月号だけですか。

事務局：そのとおりです。

次第3. 令和5年度ごみ減量の取組計画について

(資料4に基づき、事務局より説明)

委員：事業者名の記載について資料と広報で少し相違があるので確認したい。3010 マグネットはどのようなものでその活用方法について確認したい。マグネットは冷蔵庫に貼るものと聞いたので、「メモ」ができるとうい。小型家電によるメダルプロジェクトというのがあり、今日職場において廃棄された小型家電を持参した。これがどのようにっていくのかといったことを改めてもいいので教えてほしい。また、小型家電の回収は来年度以降も続けてもらいたい。

事務局：事業者名の記載については広報が正しい記載です。3010 マグネットについては、大きさや材質から直接メモ書きすることが難しいので、令和4年度分からのクリーンカレンダーに3010 運動についてチェックする欄を設けているので併用した活用をお願いしたい。持参いただいた小型家電については、改めて確認してご報告します。

委員：ごみ減量コンテストについて、市内事業者において、テイクアウトの容器をプラ製から紙製に変更して、さらに紙にシートをつけ汚れないようにしてはがせばリサイクルできるといった取組をしている事業者もあるので、こういったことを含め事業

者へも取組を広げるべきでは。事業者の取組にも図書カードではないが何か表彰できるものでもして評価してほしい。

事務局：ごみ減量コンテストについては家庭の取組を市民全体に周知したいといったことから実施しているものであり、事業者については多量排出業者から提出される計画などにおいて、引き続き減量や分別の啓発を図っていきたい。

委員：事業者の取組(テイクアウト時のプラ容器から紙への変更)により、家庭系ごみの減量につながる。そこの部分の評価をしてほしい。

委員：資源集団回収について団体数について確認したいのと、地元自治会に出す人が減っているように感じる。何か量が増えるようなことはしているのか。また高齢者が参加できるような市からの働きかけについて何かできるのか。

事務局：資源集団回収の団体数は令和3年度322団体であり、過去から大きな変化はないものの微減しているといった状況である。また、資源集団回収へのお願いについては、転入者へ啓発の案内を配布するであるとか、活動している団体へは報奨金支払い時に回収量やその順位などをお知らせするチラシを配布している。高齢者への働きかけについて、資源集団回収は自治会ごとの取組であることから困難である。

副会長：自治会総数は200。自治会に加入しない人も増えているものの加入については推奨している。また自治会の動きについて事務局にも情報を共有する。

委員：今年度の環境フェアの来場者数、ブース数について確認したい。スペースが開いていた印象がある。また当日、協力をさせていただいたが、暑いことと待機スペースがほしかった。なお、ごみの回収日時については、可燃が火・金となっている。一方で古紙・古着と廃プラ・ペットボトルが地域によって曜日が異なっている。これを同じ曜日にできないのか。

事務局：環境フェアの来場者は2,277人、ブース数は22ブース。ブースについては他に今手元に資料がないが、学校中央の運動場でフリーマーケットを開催している。これらについては、コロナによりスペースについては配慮した結果である。

なお、当日は暑さ対策として体育館付近にあるドライミストを稼働した。

事務局：収集日の質問については、受け入れる施設のキャパシティによりこのような日時にしていることが1つの理由である。少し詳しく確認して、次回に報告したいと思う。

委員：雑がみ・ペットボトルキャップ回収事業は児童・生徒が持ってくる時期を決めているのか。またデザートについては、どのような形で提供しているのか。

事務局：雑がみ・ペットボトルキャップ回収事業について、雑がみ・ペットボトルキャップを持ってくる時期につきましては、通年実施ですので登校日にいつでも持ってきていいようになっています。デザートの提供については年1回であり、提供する時期は2月末から3月です。目標値を決めて実施しているので、通年で実施していますが、目標に達成しているかについては、4月から11月の集計値で確認しています。

委員：「実施計画」最終処分場の記載について。大きさであるとかあと何年、どれくらい余力があるのかといった記載がほしい。

次第4．その他

事務局：次回の日程につきましては、12月21日の水曜日午前10時から、この場所クリーンセンター6階で開催を予定しております。先ほどからの説明でもありましたように、令和5年の目標値を示しながら、取組み内容をご説明させていただきたいと思っています。

会長：ありがとうございます。

会長：ありがとうございました。他になければ、これで、本日予定しておりました案件はすべて終了いたしました。